

図8 明条件(8:00~20:00)下の運動型出現推移

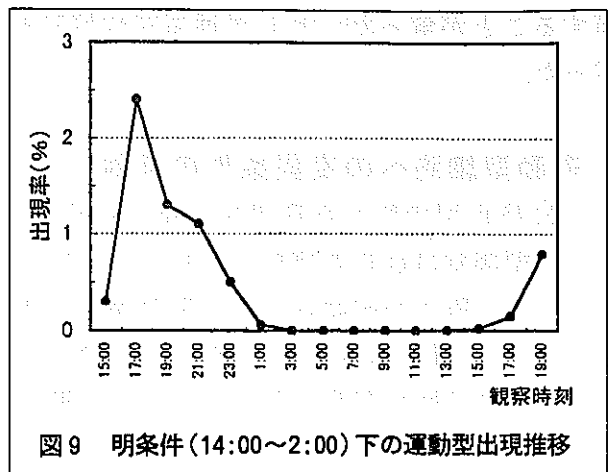


図9 明条件(14:00~2:00)下の運動型出現推移

19:00に低下し、11時間後の1:00まで運動型細胞が観察され、照明が消されると観察されなかった。照明再開始1時間後の15:00には再び運動型細胞が確認され、5時間後の19:00に出現率は再び高くなった。

培養時の光条件の違いによる運動型細胞の出現率を図10に示した。通常の12時間照明区で最高値3.7%だったのに対し、24時間、48時間照明区は0~0.4%と低かった。

### 2) 試験2 (攪拌刺激)

攪拌刺激方法と運動型細胞出現推移との関係を図11、図12に示した。60~150分後に出現率は最高値を示し、330~390分まで出現した。刺激強度を比較した試

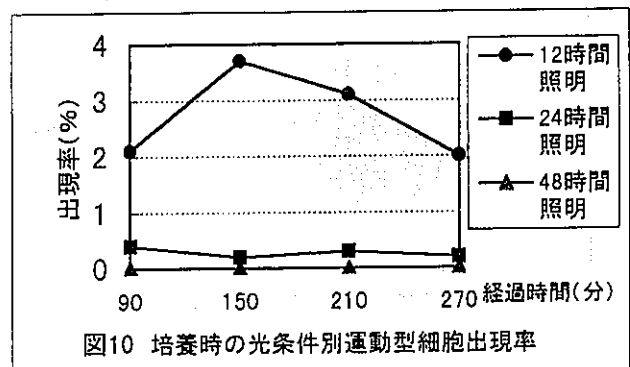


図10 培養時の光条件別運動型細胞出現率

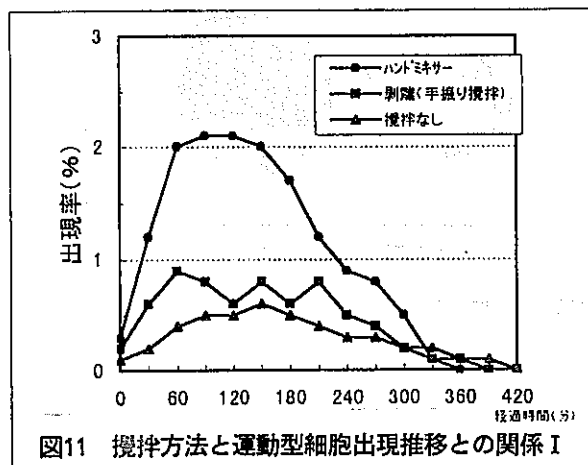


図11 攪拌方法と運動型細胞出現推移との関係 I

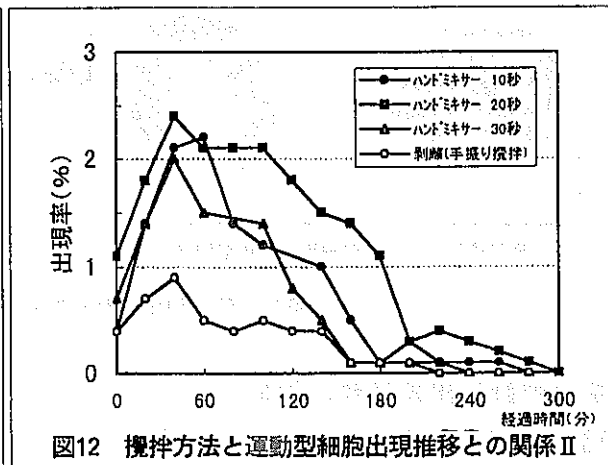


図12 攪拌方法と運動型細胞出現推移との関係 II

験では、手振り攪拌と攪拌なし区に比較してハンドミキサー攪拌区の出現率は、有意に高くなった ( $p < 0.01$ )。20秒区が最高で、30秒区は20秒区に劣った。

### 3) 試験3 (刺激時刻)

図13に刺激時刻と運動型細胞出現推移との関係を示した。9:30刺激区の最高値は23.2%、